

Leaf@同窓会

No.15

編集・発行

島根大学教育学部同窓会

松江市西川津町1060

島根大学教育学部内 (〒690-8504)

Eメール e-dousokai@edu.shimane-u.ac.jp

http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/

index.html

電話・FAX 0852-32-6297



若い力に期待！

教育学部同窓会会長 齋藤 重徳

会員の皆様、その後いかがお過ごしでしょうか。

本会の会長を仰せつかって1年が経ちました。これまで世界を震撼させたコロナ感染禍も、わが国では今春よりマスク着用が自由になったとは言いながら未だにコロナ感染の脅威を感じさせる毎日です。しかし、世の中は長かったコロナ禍のトンネルからやっと抜け出し、コロナ禍前の普通の生活を一生懸命取り戻そうとしているようにも思われます。

私自身もコロナ感染禍で止むを得ず延期していた学生時代の同窓会(42の会)を6月に敢行し、互いにコロナ禍を無事乗り越えた喜びを確認するとともに、益々の健勝と再会を誓い合ったところです。その他にも、すでに同窓会を開催したとかこれから開催予定であるとの情報も耳にし、このような会員の皆さんの集いが本学部同窓会を支える大きな力となっていることに疑念の余地はありません。

本同窓会事業もこれを機に新たな一步を踏み出さなければという思いもあり、今年度から同窓会事業の活動に興味・関心のある学生に協力者として仲間に加わっていただき、これまでとは違った視点からの情報発信を大々的に展開していく考えでおります。早速、様々な方面に取材活動をしていただいております。その報告を会員の皆様にお届けできることを大いに期待しているところです。

どうぞご期待ください。

(S46卒)



会員相互の「つながり」を深めて…

～役員総会報告～

学部同窓会理事長 原 広治

会員のみなさま、いかがお過ごしですか。教育学部では新型コロナウイルス感染症の5類感染症へと移行した後、対面での授業や実習、体験活動などが本格実施でき、学生生活も元に戻ったようです。とはいえ、「元」を知らない学生たちですので、今から大学生生活を謳歌することになりそうです。

さて、そのような状況ながら大学ではコロナ禍での配慮を継続しており、今年度の役員総会も書面審議といたしました。ご審議いただいた「令和4年度事業及び決算」「令和5年度新役員案」「令和5年度事業計画案及び予算案」につきましては、いずれも原案通りご承認いただきました。時間が限られたところでの審議となりましたが、たいへんお世話になりありがとうございました。

また、役員総会やその前に開催した理事会において、貴重なご意見をいただきました。その内容は、学生支援や学校現場の教員不足に対する同窓会としての取組、新会員の勧誘、同窓会の運営の在り方等、多岐にわたるものであり、今の時代における会員相互の「つながり」を意識したものでした。いただいたご意見を、理事会や正副会長会、幹事会等で検討し、できるところから実践してまいります。引き続き、学部同窓会活動へのご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。(S58卒)

夢を追求めて

島根大学を卒業し、小学校教員として4年目を迎えました。「中山間地域の子供たちの力を伸ばしたい」という思いで教員を目指し、現在は世界遺産の中にある大森小学校で働いています。すぐそばには山や森があり、道は狭く、野生動物もいっぱい町の、昔から住んでいたように感じてしまう居心地のよい地域です。

大森小学校には、世界遺産や自然を生かした行事が多くあります。愛護団活動や石見銀山学習、大森っ子農園、校内で採れた梅を梅ジュースにして地域へおもてなし、登山遠足、スキー学習などです。これだけ行事が多いと、もちろん大変です。しかし、そこには学校だけでなく、地域の方や、保護者の協力が必ずあります。そして、なんといっても子供たち。たった24人ですが、みんな大森の町が大好きで、何事にも一生懸命に頑張りと、優しく声を掛け合いながら協力します。故郷を愛し、周りの人と助け合える素敵な大人たちになるだろうと思わせる子供たちです。いつしか、私は、「中山間地域の子供たちの力を伸ばしたい」と思っていたのに、子供たちからパワーをもらい、勉強させてもらっています。

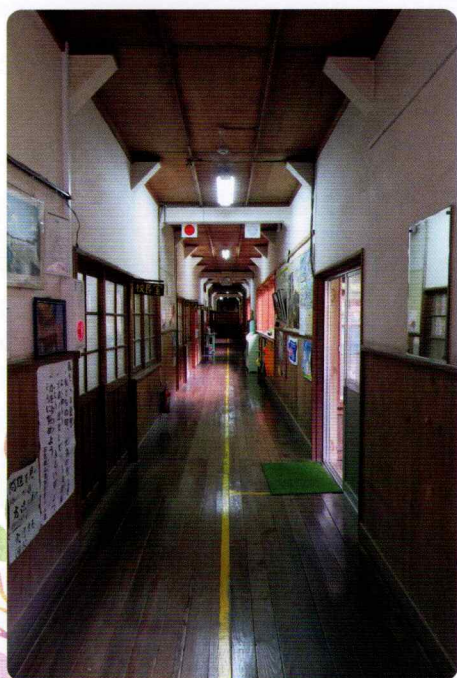
中山間地域は、交通の便が悪く、人も少なく発展していないというイメージがあると思います。確かに、コミュニティの狭さや、複式学級での学習の難しさがあります。しかし、それは異学年間の学習や交流がしやすいことや、一人一人にあった丁寧な指導ができるという良さとも捉えられます。また、私は、中山間地域の不便さを超える人との強いつながりや地域のあたたかさ、また、そこに住む人々のエネルギーに魅力があると思っています。

大森町以外にも、島根県には多くの中山間地域があり、人口も学校もかなり減ってきています。ですが、そこでの教育をのぞいてみると、新しい教育に向かうヒントがたくさん隠されていると思います。私は、都市部の学校に負けない強みを生かして、子供たちの力を伸ばしたいという新たな目標ができました。

(R1卒)



大田市立大森小学校教諭
重田 あい



大森小学校校舎

重田さんには2018年発行「リーフNo.10」に原稿をお願いしました。

その時の内容は、研究の一環として中山間地の小規模学校を訪問し教育を間近で観たことにより「地域と学校が共に手を取りながら進めていく、そんな心温まる教育を進められる教師になりたい」と書いていらっしゃいました。思いを現実に。ご活躍を期待します。

(編集部)

社会教育士とは

教員

学校は今、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて動き始めています。地域社会と連携した探究的な学びをいかに設計するか、コミュニティ・スクールやコンソーシアムを通じて学校や地域の未来を多様な関係者といかに共創していくか、学校現場は日々新たなチャレンジの只中にあります。

こうした中で注目されているのが、「学びを通じた人づくり・つながりづくり・地域づくり」を担う社会教育です。その専門人材である社会教育主事（社会教育士）に求められる専門性は、人や組織のつながりをつくるコーディネート能力や主体的な学びを引き出すファシリテーション能力など、まさに今日の学校と教員を支えるものといえます。

島根大学教育学部では、学部生の希望者が履修できる「社会教育士（地域魅力化コーディネーター）特別プログラム」を、また夜間・オンラインを中心に実施する一般向けの「社会教育主事講習」をそれぞれ開講し、社会教育主事（社会教育士）の養成に取り組んでいます。社会教育主事（社会教育士）の資格を有するいわば「二刀流」の教員の活躍がますます広がっています。



教育学研究科講師
大野 公寛



出雲市立浜山中学校教諭
吉田 理沙

「さまざまな人と出会うことで、中学生は未来の理想の自分を思い描くことができるのではないか。」「学校と地域をつなぐため、他の地域ではどんな取組をしているのか知りたい。」そんな思いから社会教育主事講習を受講しました。多種多様なサポーターや全国の学修者の皆さんと共に学んでいくうちに、「知りたい」という気持ちが「自分もやりたい」という気持ちに変化しました。子どもたちがワクワクする未来を思い描くために、学校と地域は共に何ができるのか、私自身もワクワクしながら総合的な学習の時間の授業づくり、地域の人とのつながりづくりを進めています。（H20卒）

学生

「学校から飛び出し、広い視点で教育を充実させられるようになりたい」という思いから、社会教育士特別プログラムを受講しました。特にファシリテーションという意識・技法を学べたことが大きかったと感じています。私は実際に地元である境港市で、高校生と地域の施設の使い方についての課題解決に取り組む探究的な学びのワークショップを実施したのですが、その中で主体的な参加とはどういうことなのか、じっくりと考え、場の設計を工夫するようになりました。

私の夢は、地域をまるごと"がっこう"にすることです。大人も先生、子どもも先生。みんなが心から学び合えるような、そんなまちを作りたいと考えています。



国語科教育4年
吉岡 彩那



わたしの推し 上田先生

「推し」とは、人に薦めたいと思えるほどに好感を持っている人のことです。

今回の「推し」は、上田悠人さんです。上田さんは、松江市内の学校で非常勤講師をしながら、SAN-IN軽音部の運営※1、楽器講師、そして自身もベーシストとして音楽活動※2をされています。このような様々な活動をされている上田さんにインタビューをしてきました。

「過去も現在もずっと一番楽しい！」インタビューで最も印象に残っている言葉です。上田さんは、本当にいつも楽しそうなんです！上田さんのバンドのライブを見に行くことや、お話をしていると私も楽しくなります。だから、「いつが一番楽しい？」と質問をしました。上田さんは「相手を喜ばせることを大切にしている」とお話ししてくださいました。

学校に勤めているときは、生徒がどのように問題を解くことができたら嬉しいのか。ライブをしているときは、どのようにしたら、お客さんが楽しみながら音楽を聴くことができるか。常に思考と工夫を繰り返して、上田さんにしかできない授業や作品を作っています。

相手も自分も、過去も現在も未来も楽しむ上田さんのさらなる活躍が楽しみです！



英語科教育3年
占部 ほのか



※1 SAN-IN軽音部の運営について

山陰の中学生・高校生・高専生を対象とした音楽サークル。バンドや音楽が好きな人同士が、「音楽」を通じて、楽しく音楽仲間の輪を広げていくことを目的とした「地域活動」である。参加者は中高生限定とし、大人スタッフと学生スタッフで活動の管理、運営を行っている。

※2 上田さんご自身の音楽活動

島根県松江市が活動拠点の4人組ピアノロックバンド「in a blue moon」

今年度の同窓会活動

コロナ禍で困難な状況が続いていましたが、少しずつ活動の活発化をめざしていきたいと考えています。

●「こんにちは、先輩先生！」「ようこそ、先輩先生！」

学生向けの企画は、教育学部や大学での企画と合同での実施を検討しています。
まだまだ制限が入るでしょうが、新たな方法で学生支援を行っていきたいと考えています。

●教育振興奨励賞・教育学部生への激励金

今年度も学部の振興・発展のために尽くされた教職員や活躍した学生を表彰します。

●同窓会誌75

今年度も読みやすく、充実した会誌をお届けしたいと思います。

●同窓会名簿（2024年度版）

4年に1度の改訂に向け準備に入りました。

同窓会事務局（山田幸子）から同窓生の皆へ

同窓会活動へのご支援・ご協力ありがとうございます。
事務局は、通常火曜日・金曜日の午後1時から4時まで在室しています。
ぜひお立ち寄りください。